

# 名作文庫通信

2022年 冬号



冬季特集

## 名作文学のピカレスクたち

名作に登場する魅力的な悪漢(ピカレスク)たちを紹介



### 【悪の華】

ボードレール/著 堀口大祐/訳 新潮文庫/刊

ボードレールが、生涯に唯一著した詩集。フランス象徴主義を切り拓き、ランボー、マラルメら、後世の詩人たちに絶大な影響を与え、後には、フランス近代詩の創始者と仰がれることになるのだが、憂鬱と倦怠と悪徳に満ち、世紀末の匂いが濃厚に漂うこの詩集は、生前、一般には理解されることはなかった。天才詩人は、飲酒癖、アヘン中毒に蝕まれ、不遇のまま死んでいった。



### 【薔薇の奇跡】

ジュネ/著 宇野邦一/訳 光文社古典新訳文庫/刊

監獄と少年院を舞台に、「薔薇」に譬えられる美しい囚人たちとジュネ自身をめぐる、暴力と肉体の物語。同性愛者であり泥棒でもあった作家が、悪と性に彩られた監獄世界を緻密かつ幻想的に描くことで、聖性を発見していく。(TRC MARCより)

### 「名作文庫」とは？

下井草図書館では文学、哲学、思想、歴史などの名著名作を文庫版・新書版で集め、「名作文庫」としてご紹介しています。



## 今月の1冊 心の旅を描く物語



### 【罪と罰 上・中・下】

ドストエフスキー/著 江川卓/訳 岩波文庫/刊

金を奪う目的で、高利貸の老婆とその妹を殺害した貧乏学生のラスコーリニコフ。犯行を実行するにあたり考えだした独自の犯罪哲学では、良心の呵責に苦しむことはないはずだったのだが……。サスペンスに満ち、次々に曲の強い、興味をそそる人物が登場し、物語は意外な方向に展開していく。世界文学最高峰の作品でありながら、超一級のピカレスク小説のようにおもしろい。

## 新着本 新しく入った本のご紹介



### 【ロウソクの科学】

ファラデー/著 渡辺政隆/訳 光文社古典新訳文庫/刊

科学者ファラデーが少年少女を相手に行った連続講義録。ロウソクの種類、製法、燃える仕組みから、燃えるときに起こる物理・化学現象までを、さまざまな角度からやさしく解説する。科学の楽しさと奥深さを伝える不朽の名著。(TRC MARKより)



### 【田舎医者/断食芸人/流刑地で】

カフカ/著 丘沢静也/訳 光文社古典新訳文庫/刊

猛吹雪のなか、往診に向かった先で診た患者とその家族とのやり取りを描く「田舎医者」や、奇妙な機械で死刑が執行されている島を舞台にした「流刑地で」など、カフカが自信をもって世に出した傑作短編8編を収録する。(TRC MARKより)

## 編集後記

太宰を初めて読んだのが高校生のときだ。自殺未遂を繰り返し、最後は愛人と心中する。太宰のピカレスクぶりに、不潔さのようなものを感じ、好きにはなれなかった。だが、四十歳を過ぎ、なにかの拍子に、読み返したら、たまらないほど親近感をおぼえ、まとめて読み直した。いまでは太宰ファンである。

発行：杉並区立下井草図書館

杉並区下井草3-26-5

